

# 24、PMD症児の遊びの研究 — 野球用具の改良と試作 —

国立療養所宇多野病院

鞆山 紀子

機能低下という身体的ハンディを伴っている為、種類や数が限られ展開の過程での反応も半減しがちなPMD症児の「遊び」に焦点をあて患児達の積極的参加と円滑な展開を図り、その中で「遊び」の意義、在り方についても検討していく事を目的として、用具の改良と試作に取り組んできた。

## 〔経過〕

昨年度は当病棟患児達に好まれている「野球」を取り上げ、ポジションに流動性を持たせる為の一方法として打撃練習用補助具を考案、試作し患者達に好評を得た。しかし、ボールが飛び自分で回収もできるようにすれば、より楽しくなるのではないかという事で更に改良を考えた。

右図は患児達からの改良案をまとめたものである。

(ボールに釣糸をつけ上のパイプに通し、リールで巻き取る。)

これら野球用具の改良、試作をする中で患児達が①他のゲームについてどのように考えているのか。②今、一番やりたい遊びはなにかを知り今後の方向を得たいと考えアンケートを行なった。

## 〔アンケート〕

(対象)

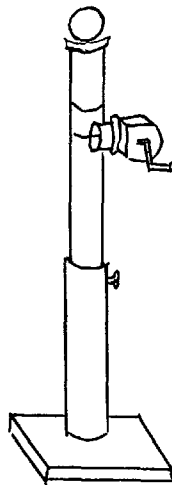
小学校高学年から高校生までの障害度3度～6度の患児20名。

(結果)

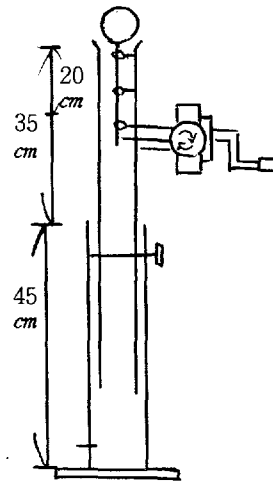
項目1.では、卓球、テニス等よりサッカー、バレーボールのように多くの人数が行うものがあげられていた。

2.では、改良した方がいいが20名中14名であった。

(完成図)



(断面)



3.で独歩可能な患児から車椅子使用の患児まで全員が楽しめる事を第一に考え、協力し合って作っていきける物が取り上げられていた事は改良、試作を進めてきた過程において、ただ見ているだけだった患児が、ゲームに参加し用具にも触れる機会が多くなった時、より扱い易くするには、どうすればいいかを身近な問題として考えられるようになってきたのであり各児が相手や周囲の諸条件を研究し、それぞれの要求を調整しなければならないという姿勢を養成してきている表われであるといえる。

6.では、水泳、スラローム、将棋等、各児が機能面及び趣味等を考慮に入れながらも自分の力を競いたいという傾向が見られた。

「遊び」についてのアンケート

— その1 ボールを使うゲーム —

1. 野球、ホッケー、卓球、バレーはみんながよくやりますが、その他にボールを使うゲームでやりたいものには、どんなものがありますか。
2. そのゲームをする場合、使う用具について。  
①そのままがいい  
②改良したり補助具を作った方がいい  
③わからない
3. 2.で②と答えた人はどのようにしたらいいと考えますか。(図でもいいです)
4. ルールについてはどうですか。  
①そのままがいい  
②少し変えた方がいい  
③わからない
5. 4.で②と答えた人はどのようにしたらいいと考えますか。
6. 今、一番やりたい遊びはなんですか。

【今後の課題】

1. 現在は余り考えられていないルールの工夫、改良についても検討していく。
2. 課題解決の方法や競争に勝つ事に伴う困難に耐える力を助長する上で各児の力が発揮できる場を広く設定していく。
3. アンケート結果を基に 「野球」以外のゲームの用具について工夫、改良、試作をしていく。これらの過程における変化、反応が他の生活場面に波及し好影響を与え、人格形式の為の一助となるように指導していきたい。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

機能低下という身体的ハンディを伴っている為、種類や数が限られ展開の過程での反応も半減しがちな PMD 症児の「遊び」に焦点をあて患児達の積極的参加と円滑な展開を図り、その中で「遊び」の意義、在り方についても検討していく事を目的として、用具の改良と試作に取り組んできた。